

日本女性学会 2023 年度少額研究活動支援 報告用紙

提出期限 6月30日

提出年月日 2024年9月29日

名前	于寧
所属・立場	国際基督教大学ジェンダー研究センター 研究員 東京大学教養学部附属 教養教育高度化機構 D&I 部門 特任研究員
支給を受けた研究活動	中国における同性愛主体の浮上の歴史 -1910年代以降の大衆メディアを中心に-
研究活動の実施状況	<p>本研究は、近代以降の中国における「同性間の親密な関係」に対する認識パターンの変遷を手がかりに、現在の性的マイノリティの文化政治を理解することを目的とする。本研究の研究対象は中国であるが、蔡明発と岩淵功一が提唱した、従来の「アジア - 欧米比較」に潜むヒエラルキーに挑戦する為、アジア間の経験を学び合うことを通じて創造的な知識生産を促進する「アジア間相互参照」という比較の図式を援用し、日本における「同性間の親密な関係」の認識パターンに関する研究成果を参照枠に設定することを通じて、より歴史化・文脈化された分析を図る。</p> <p>以上により本研究では概念史の手法を用い、「同性間の親密な関係」に対する近代的な理解を表す概念とされる homosexual (ity) が中国語に翻訳・受容されたプロセスに特化し、古川誠をはじめとする日本の研究者らによる日本語への翻訳プロセスを追った研究成果を参照しながら、1910年代から1990年代にかけて、新聞や雑誌、書籍、辞書などの文字媒体を分析することを通じて、中国語訳として定着した「同性恋」にまつわる意味の変遷を追い、そこに存在する認識パターンの多様性と連続性を明らかにしている。</p> <p>これらの調査結果を基に、本研究では更に、中国における同性愛主体の浮上の歴史を考証している。日本における大正時代以降の雑誌や新聞の投稿欄における「男性同性愛者」の登場に関する前川直哉らの研究を参照枠に、中国で「同性愛」概念が導入された1910年代以降の大衆メディアにおける当事者が発した一人称のナラティブと考えられるテキスト、例えば、当時の雑誌に掲載された性欲に関する社会調査や、雑誌や新聞に寄せられた当事者の投稿、書籍に掲載された性に関する経験談、同性との親密な関係が記載された日記や、自伝小説などを選び出し、「同性愛者」という主体の出現のプロセスに迫り、「近代的なアイデンティティ」という認識パターンの導入について考証を行っている。</p> <p>なお、これらの成果の一部は、『中国女性史研究』第33号に掲載された(2024年2月)。</p>
幹事会使用欄	